

AG5 だよ

日本人学校・
補習授業校を
応援します！

補習授業校の児童生徒対象「学習状況調査(子ども調査)」結果報告

AG5委員・首都大学東京 国際センター准教授 岡村 郁子

AG5プロジェクトでは、補習授業校の現状と課題を探るため、昨年、アメリカの補習授業校に通う小5～高3の約5,400人を対象にアンケート調査を実施しました(回答者数3,826人、回答率71%)。お答えいただいた児童生徒の皆さん、先生方・保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。調査結果等から現在の補習授業校の子どもたちの姿や補習授業校に対する思いについて、さまざまなことが明らかになりました。また、日本への帰国予定の有無等による結果の比較、補習授業校と日本国内の学校に通う児童生徒との比較分析を通して、アメリカの補習授業校の特色と課題も見えてきました。今後、本プロジェクトの取り組みに反映させていきますので、その内容をダイジェスト版でご紹介します。

*文中のパーセンテージは小数点以下を四捨五入しています。



調査の概要

○調査日時

二〇一七年九月～十月

○調査事項

補習授業校に通う児童生徒の学習状況や生活態度、学校の授業の感想などについての九十七項目(国立教育政策研究所が実施する「全国学力・学習状況調査」の項目を含む)および属性についての八項目

○調査対象児童生徒数

五四一七人(回答数三八二六六人・男子一七四七人・女子二〇五〇人・無回答二十九人)、回答率七一一%

○回答した学校数

アメリカの補習授業校四十九校

○対象学年

小学部五年生～高等部三年生

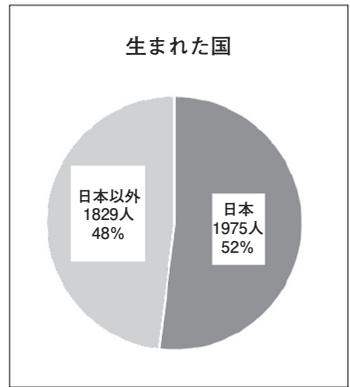
(1) 補習授業校に通う子どもたちの姿

●出生地はどこですか？

「日本生まれ」が五二%、「日本以外生まれ」が四八%で、ほぼ半数ずつという結果でした。

●日本に住んだことがありますか？
アメリカ以外の国に住んだ経験は？

生まれた国



日本での居住経験が「ない」と答えた人が三五%で、全体の約三分の一が日本に住んだ経験がないことがわかりました。

●日本への帰国予定はありますか？

「日本へ帰国する予定」と答えた人が四四%、「アメリカにずっと住む予定」とした人が二〇%、「わからない」と答えた人が三六%です。

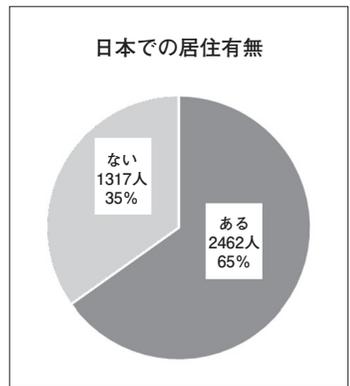
半数以上の子どもたちが日本に帰ることが不確定な状況にあることがわかります。

●一番得意な言語は何ですか？

「日本語」と答えた人は五五%です。「英語」または「その他の言語」が日本語より得意とした人が、合計四五%に上りました。

これらの結果から、補習授業校に通う児童生徒の約半数が、日本以外の国で生まれて、アメリカにずっと住んでおり、日本語より英語を得意とする傾向が見られます。

日本での居住有無



とされていることがわかります。また全体の三五%は「日本居住経験がない」と答えており、「永住か帰国か」について日本へ帰国することがわかっている人は四四%にすぎません。

もともとは日本に帰国する児童生徒の教育を目的として設立された補習授業校が、在籍者の多様化により教育内容や方法に工夫を迫られている現状が見てとれるでしょう。

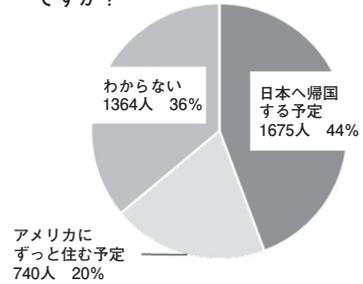
(2) 補習授業校について、どう思っていますか？ 塾や家庭教育師については？

●補習授業校に行くのが楽しみですか？ やめたいと思ったことは？

次に、子どもたちの補習授業校に対する率直な思いを聞いてみました。補習授業校に行くのが楽しみですか？ やめたいと思ったことは？ 「そう思う」と「どちらかといえば

そう思う」を合わせて、約七割が「楽

将来的に日本へ帰国する予定ですか？
それとも、アメリカにずっと住む予定
ですか？



しい」と回答しました。

理由として約九五%が「友達に会うのが楽しいから」と答え、「好きな授業がある」も七割近くに上りました。

一方、「補習授業校をやめたいと思ったこと」が「よくある」「少しある」を合わせると、半数以上の五九%が「ある」と答えました。

理由は、「宿題がたくさんあるから」「土曜日に他のことがしたいから」「土曜日に遊べないから」がトップスリーでした。

さらに分析を進めると、得意な科目を「日本語」と答えた人は、そうでない人と比べると、「補習授業校に行くのが楽しみ」が二倍多く、「やめたいと思ったことがある」が三分

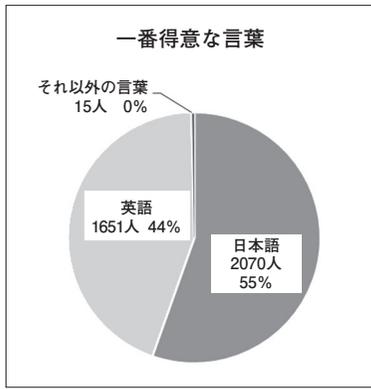
の一と少なく、大きな差があることがわかりました。

なお、参考として、現地校について一部同じ質問をしてみました。「行くのが楽しみ」とする割合は現地校の方が高いものの、「友達に会う」楽しさは現地校・補習授業校ともほぼ八割で同等です。

「好きな授業がある」については、現地校では八割近くが「そう思う」と回答し、補習授業校の四四%を大きく上りました。補習授業校の授業は主に国語と算数／数学に科目が限られますが、現地校では体育や音楽なども行われています。それらも含めて回答していることから、この結果につながったと予想されます。

●勉強時間はどのくらいですか？

「一週間当たりの補習授業校のための勉強時間」を尋ねたところ、「三



時間以上」が二八%、「二〜三時間」が二二%、「一〜二時間」が二五%でした。「一時間未満」が二〇%、「まったくしない」と答えた人も四%いました。

「一日当たりの現地校のための勉強時間」を一時間以上と答えた人が七割近くいるのに比べると、時間数は多くありませんが、金曜日の夜に三時間以上集中して取り組むような場合には、かなりの負担に感じられることでしょう。

●塾や家庭教師を利用していますか？

塾や家庭教師の有無を問う項目については、日本の勉強については九割以上が「なし」と回答し、「日本の受験塾に通っている」人は七%にとどまりました。

アメリカでは大都市部において大手進学塾の進出が顕著ですが、今回の調査協力校の中にはあまり塾の進出していない都市・地域もあったこと、また土曜日に補習授業校に来ることなく平日に塾に通う「現地校+塾」を選択している、いわゆる「補習授業校離れ」の層については今回の結果に含まれていないこと等が理由として考えられるでしょう。

日本語教育を一手に担う補習授業校の役割の重大さを示す結果でもあります。

(3) 帰国予定者と永住予定者の違いについて

次に、「自分自身について」の項目で日本への帰国予定者と永住予定者の集計結果を比較したところ、いくつかの項目で有意な差異が見られました。その一部をご紹介します。

●チャレンジ精神や自己肯定感の高さについて

「あなた自身について」の質問項目のうち、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」では、帰国予定者二四%に対して永住予定者では三四%が「そう思う」と答えており、帰国予定者よりチャレンジ精神が高いことがうかがわれます。

また、「自分にはよいところがあると思う」では、「そう思う」と回答したのは、帰国予定者五三%に対し永住予定者六八%で、一五%の差が見られました。

「自分のことを大切な存在だと感じている」についてもそれぞれ四一%、五六%と、一五%の差があり、永住予定者の方が帰国予定者に比べて、総じて「自己肯定感」が高いことが示されました。

●将来日本で仕事をしたいですか？

「将来日本で仕事をしたいと思えますか？」という問いに対し、帰国予定者の八割以上が「当てはまる」

<帰国予定者と永住予定者の違いについて>

	全体		8. 帰国予定/永住予定	
	回答人数 (無回答含む)	%	日本へ帰国 する予定	アメリカにずつ と住む予定
	3826	100%	1675	740
Q1. 物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがある。	当てはまる	2713	71.3%	68.2%
	どちらかといえば、当てはまる	922	24.2%	25.9%
	どちらかといえば、当てはまらない	136	3.6%	4.5%
	当てはまらない	34	0.9%	1.1%
Q2. 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	当てはまる	1075	28.3%	33.5%
	どちらかといえば、当てはまる	1781	46.8%	45.0%
	どちらかといえば、当てはまらない	801	21.1%	17.6%
	当てはまらない	148	3.9%	3.5%
Q3. 自分にはよいところがあると思う。	当てはまる	2222	58.5%	68.4%
	どちらかといえば、当てはまる	1203	31.6%	24.9%
	どちらかといえば、当てはまらない	270	7.1%	4.6%
	当てはまらない	106	2.8%	1.6%
Q4. 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ。	当てはまる	1377	36.2%	40.9%
	どちらかといえば、当てはまる	1296	34.1%	34.3%
	どちらかといえば、当てはまらない	798	21.0%	18.5%
	当てはまらない	329	8.7%	5.9%
Q13. 自分のことを大切な存在だと感じている。	当てはまる	1785	47.0%	56.2%
	どちらかといえば、当てはまる	1398	36.8%	31.1%
	どちらかといえば、当てはまらない	470	12.4%	9.6%
	当てはまらない	143	3.8%	2.3%

「どちらかといえば当てはまる」と答えました。

一方、永住予定者の中でも二五％近くが「将来日本で仕事をしたい」と答えています。英語を第一言語としながら補習授業校で日本語を学び、将来は日本で働くことを考えるグローバルな人材の育成のために、補習授業校が大きな役割を果たすと考えられます。

またこれとは逆に「将来日本以外の国で仕事をしたい?」という問いに対し、永住予定者の八五％以上が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答していますが、その割合は帰国予定者の場合も約四五％に上り、いずれも世界を舞台にしたキャリア形成が期待されます。

(4) 高校生の意識(回答数四一五人)

高校生に「補習授業校に通い続けている理由」と「卒業後の進路」を聞いてみました。

高校段階で補習授業校に通っている生徒たちに、まず、「高校まで補習授業校に通い続けている理由(複数回答)」を尋ねました。

一年生・二年生で特に多い回答を得たのは、「友達に会えるから」「将来の役に立つと思うから」の二つで、それぞれ六〜七割でした。

次に多かったのが「親が勧めるから」で、一年生・二年生ではほぼ四割、三年生でも二割を超えます。

また、すべての学年でほぼ二割が「授業が楽しいから」「行事が楽しいから」「日本の勉強をするのが好きだから」と答えており、主として友人に会える楽しみに加えて、将来を見据えて補習授業校に通う中で、さまざまな楽しみを見出して高校まで通い続けていることがわかります。

さらに「卒業後の進路」では、一年生では「日本の大学等に進学予定」が半数を超え、二年生でも四〇％を上回りますが、学年が上がるにつれて「アメリカの大学等に進学」の割合が増えて三年生では五〇％を占めています。

日本の大学へ進学したい希望があっても、実際には入試制度や、日本語力の問題などで断念するケースが多いことも予想され、日本の大学の受け入れ体制の拡充整備が大いに期待されるところです。

(5) 国内調査と結果を比べてみる

と……

今回実施した調査では、日本国内で小学六年生と中学三年生を対象として実施されている「全国学力・学習状況調査」(国立教育政策研究所)

<高校生の意識>

		高校1年生	高校2年生	高校3年生
		205人	168人	42人
Q19. 高校まで補習授業校に通い続けているのは、どのような理由からですか？当てはまるものを全て選んでください。	友達に会えるから	65.4%	69.0%	54.8%
	授業が楽しいから	20.5%	25.0%	23.8%
	日本の勉強するのが好きだから	19.0%	29.8%	26.2%
	わかりやすく教えてもらえるから	11.7%	14.9%	16.7%
	行事が楽しいから	26.8%	33.9%	21.4%
	将来の役に立つと思うから	63.9%	73.2%	57.1%
	親がすすめるから	39.5%	39.9%	23.8%
	その他	9.8%	9.5%	14.3%
Q20. 卒業後の進路はどのような予定ですか？	日本の大学等に進学する予定	53.2%	43.5%	40.5%
	アメリカの大学等に進学する予定	33.2%	47.0%	50.0%
	日米以外の国の大学等に進学する予定	0.5%	1.2%	-
	その他	7.8%	4.2%	2.4%

の質問紙調査と共通する項目についても尋ねました。補習授業校と日本国内のそれぞれを比較して、大きな差異があった点を紹介します。

●自分にはよいところがあると思いますか？

「当てはまる」と答えた国内の小学六年生三九%、中学三年生二八%に対して、補習授業校ではそれぞれ六二%、五〇%で、補習授業校が国内を大きく上回りました。

「どちらかといえば当てはまる」を合わせると、国内の小学六年生七八%・中学三年生七一%に対して、補習授業校ではそれぞれ九三%・八七%と、自己肯定感が圧倒的に高いことがわかります。

●友達の前で自分の考えや意見を発表するのは得意ですか？

補習授業校では小学六年生・中学三年生ともに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が約七割で、国内の五割を大きく上回りました。

補習授業校に通う子どもたちが、平日の現地校の授業を

通じてプレゼンテーションや質疑応答に慣れていることがうかがえます。現地校では小さい頃から「Show and Tell」などでクラスの前に出て自分の考えをまとめて話す機会が与えられ、授業内でのプロジェクトワークも多くあります。また日本と比べて「間違いを恐れる」ことなく発言する傾向もあるため、このような差異が生まれるのではないのでしょうか。

●一日何時間くらい、日本語のテレビやDVD、動画サイトを視聴していますか？

補習授業校の小学六年生では約六五%が一時間未満でした。「四時間以上」と答えたのは、国内の小学六年生一七%に対して、補習授業校ではわずか五%で、中学三年生も同傾向です。児童生徒ともに「まったく見ない」も一五%おり、日本に比べてテレビやDVD等の視聴時間は多くありません。

●一日何時間くらいゲームをしますか？

「一時間未満」としたのは国内で約四五%に対し、補習授業校では約六五%でした。補習授業校では小学六年生の二割以上、中学三年生の三割以上が「まったくしない(見ない・聞かない・しない・持っていない)」

と回答、補習授業校の子どもたちのゲームに充てる時間は圧倒的に少ないことがわかります。

●将来日本以外の国で仕事をしたいですか？

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えたのは小学六年生と中学三年生ともに、日本国内は約三五%だったのに対し、補習授業校では六五%でした。海外に学ぶ子どもたちが将来の活躍の舞台を世界にイメージしていることがうかがえます。

以上、結果の一部をダイジェストでお伝えしました。

アメリカの補習授業校で学ぶ子どもたちの姿、そして、その日常を将来のグローバルな活躍へとつなげる上での課題も、少し見えてきたのではないのでしょうか。

「日本人学校・補習授業校応援サイトAG5」(<https://ag5.jp>)には、ここではご紹介できなかった詳細な調査結果を掲載いたしますので、ぜひご覧のうえ、ご質問・ご感想等をいただければ幸いです。

また、六月号でお知らせしました「facebookへも、皆さまからのご投稿をお待ちしています。」

(<https://www.facebook.com/groups/1664125650300837/>)